

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																
専門学校日産栃木自動車大学校	昭和58年2月15日	小林 裕明	〒 329-0604 (住所) 栃木県河内郡上三川町大字上郷字南西原2120 (電話) 0285-56-3585																																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																
学校法人 日産学園	昭和58年2月15日	杉本 全	〒 329-0604 (住所) 栃木県河内郡上三川町大字上郷字南西原2120 (電話) 0285-56-3585																																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
工業	工業専門課程	国際自動車整備科	令和 3(2021)年度	-	-																														
学科の目的	<p>国家二級自動車整備士資格を取得できる知識と実践力を身に付け、整備士として基本的な自動車整備技術を習得する。          自主性を持ち、課題に対し積極的に取り組む姿勢を身に付ける。          就職後の職場での円滑なコミュニケーションが取れるような演習を行う。          社会・地域に貢献し、法令・倫理の規範を遵守する。          日産自動車株式会社の社内資格「整備士3級資格」に沿った内容の作業ができ、一連のお客様対応スキルを身に付ける。</p>																																		
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)	<p>国家資格である2級自動車整備士試験に合格するために、自動車工学、自動車整備、整備機器取扱、自動車法規などの学科授業を行い、自動車整備技術を身に着けるために、エンジン、シャシ、電装品などの整備を実習授業で習得する。          国家資格以外には日産整備士資格3級や損害保険(自動車)の募集人資格を取得する          希望により 日本語能力試験、損害保険募集人、ガス溶接技能講習、アーク溶接特別教育、フォークリフト運転技能講習等の資格取得が可能</p>																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	- 単位時間	- 単位時間	- 単位時間	- 単位時間	- 単位時間																												
		108 単位	68 単位	- 単位	40 単位	- 単位	- 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																															
270 人	235 人	235 人	100 %	0 %																															
就職等の状況	<p>■卒業生数(C) 26 人          ■就職希望者数(D) 25 人          ■就職者数(E) 25 人          ■地元就職者数(F) 4 人          ■就職率(E/D) 100 %          ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) 16 %          ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) 96 %          ■進学者数 0 人          ■その他          卒業後は本国に帰国          (令和 7 年度卒業者に関する令和 8 年 5 月 1 日時点の情報)          ■主な就職先、業界等          (令和5年度卒業生)          日産販売会社、他メーカー系販売会社</p>																																		
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価:          ※有の場合、例えば以下について任意記載</p>		<p>無</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																
当該学科のホームページURL	<p><a href="https://www.nissan-gakuen.ac.jp/tochigi/infomation.html">https://www.nissan-gakuen.ac.jp/tochigi/infomation.html</a></p>																																		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>- 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>- 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>- 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>- 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>- 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>- 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>- 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>40 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>32 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>40 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>32 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>0 単位</td></tr> </table>							総授業時数	- 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	- 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	- 単位時間	うち必修授業時数	- 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	- 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	- 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	- 単位時間	総単位数	40 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	32 単位	うち企業等と連携した演習の単位数	0 単位	うち必修単位数	40 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	32 単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	0 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	0 単位
総授業時数	- 単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	- 単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	- 単位時間																																		
うち必修授業時数	- 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	- 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	- 単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	- 単位時間																																		
総単位数	40 単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	32 単位																																		
うち企業等と連携した演習の単位数	0 単位																																		
うち必修単位数	40 単位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	32 単位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	0 単位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	0 単位																																		
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して6年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>9 人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1 人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>10 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>20 人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して6年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	9 人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1 人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	10 人	計	20 人	20 人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して6年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	9 人																																		
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1 人																																		
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																		
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人																																		
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	10 人																																		
計	20 人																																		

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針  
卒業生の就職先である自動車整備業界の要請に応じ、実践的かつ専門的な職業教育を組織的に実践する。  
日々進化する自動車技術に対応するために企業等と定期的な会合を持ち、要請内容を把握し具体的な授業科目や授業内容の編成を行うことを基本方針とする。  
また企業等に協力のもと、卒業生に対する定期的なアンケートを実施し、教育の成果を把握し授業編成に反映する。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け  
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記  
本委員会は校長の下に置く。  
委員会が出た意見は教育部（一級自動車工学課、国際自動車整備課、自動車整備課、教務課）で検討し校長の許可を得て次年度以降の教育活動に反映させる。  
審議結果、教育活動への反映については、次回の委員会において学校側委員から報告する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
石原 友則	一般社団法人栃木県自動車整備振興会 教育技術部 次長	令和8年4月1日～令和9年3月31日 (毎年度初めに継続を確認)	①
菅野 好一	栃木日産自動車販売株式会社 戦略企画部 採用人財育成グループ 次長	令和8年4月1日～令和9年3月31日 (毎年度初めに継続を確認)	③
友善 直樹	日産プリンス栃木販売株式会社 営業本部 営業支援グループ 課長	令和8年4月1日～令和9年3月31日 (毎年度初めに継続を確認)	③
木村 俊宏	株式会社 茨日ホールディング 人財開発部 教育グループ 課長	令和8年4月1日～令和9年3月31日 (毎年度初めに継続を確認)	③
小林 裕明	専門学校 日産栃木自動車大学校 校長	令和8年4月1日～令和9年3月31日 (毎年度初めに継続を確認)	-
羽井野 昌能	専門学校 日産栃木自動車大学校 学務部 部長	令和8年4月1日～令和9年3月31日 (毎年度初めに継続を確認)	-
高橋 真	専門学校 日産栃木自動車大学校 教育部 部長代理	令和8年4月1日～令和9年3月31日 (毎年度初めに継続を確認)	-
渡辺 禎	専門学校 日産栃木自動車大学校 教育部 教務課長	令和8年4月1日～令和9年3月31日 (毎年度初めに継続を確認)	-
三浦 泰宏	専門学校 日産栃木自動車大学校 学務部 広報課長	令和8年4月1日～令和9年3月31日 (毎年度初めに継続を確認)	-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期  
(年間の開催数及び開催時期)  
年2回（7月、1月）  
(開催日時（実績）)  
令和6年度 第1回 令和7年7月25日 10：00～12：00  
令和7年度 第1回 令和8年2月27日 14：00～16：00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況  
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。  
留学生の語学力に問題があるようだが同科の卒業生に協力してもらおうのはどうか。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針  
学科授業、実習授業により国家2級自動車整備士を取得することに加え、日産自動車の社内資格である「整備士3級」の技能と知識を身に着ける実践的かつ専門的な職業教育を実施するにあたり、日産自動車株式会社と連携し、社内資格の取得に必要な技能要件を授業に組み込むことにより卒業後に即戦力となる技術力を身に着けさせる。  
日産自動車（株）との運用取り決めにより、通信レポートや技術要件の授業への反映を確認するために、学校カリキュラムと日産資格との対応表を提出し両方で内容を確認する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

日産自動車（株）との運用取り決めに基づき、学科授業、実習授業に日産整備士資格取得に必要な項目を組み入れる。

組み入れる科目については「日産資格修得要件基準（TS）授業対照表」により確認している。

各科目の履修試験により理解度を確認している。

実技項目については9項目の技術要件を定め、項目ごとに作業確認を行い、結果は日産自動車（株）に報告する。

学科項目は科目の履修試験のほかに日産自動車（株）が作成し学校で実施する「認定試験」を受験し日産自動車が採点して合否を判定する。

日産自動車（株）が販売会社の整備士向けに行う講座を聴講し、技術的な知識を高める教員研修を実施している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
自動車整備作業（車両1）	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	教材には日産自動車から提供された車両を使用し、「日産資格修得要件」を含む技術を習得する。 自動車の日常点検 補機ベルトの点検、交換、調整 油脂類（エンジンオイル、ミッションオイル（M/T）、デフオイル、冷却水）の点検、交換 タイヤローテーション	日産自動車株式会社
自動車整備作業（シャシ1）	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	教材には日産自動車から提供された車両を使用し、「日産資格修得要件」を含む技術を習得する。 ブレーキ装置の構造、機能 ブレーキ装置の分解、組立 ブレーキ装置の点検・調整	日産自動車株式会社
自動車整備作業（電気1）	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	教材には日産自動車から提供された車両を使用し、「日産資格修得要件」を含む技術を習得する。 電流、電圧、抵抗の測定 電気回路計算 サーキットテスタの使用法 電圧（電圧降下、電位）の測定により、断線箇所が判断 半導体の基礎	日産自動車株式会社
自動車整備作業（電気2）	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	教材には日産自動車から提供された車両を使用し、「日産資格修得要件」を含む技術を習得する。 自動車の電装品（灯火、信号系統、安全装置） 自動車の電気回路図、配線図、偽装図 自動車の電装品（灯火、信号系統、安全装置）の点検 自動車の電装品の故障診断	日産自動車株式会社
自動車整備作業（エンジン2）	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	教材には日産自動車から提供された車両を使用し、「日産資格修得要件」を含む技術を習得する。 エンジンの詳細の構成、部品名称、構造、作動 エンジンの潤滑装置、冷却装置の構造、機能 エンジンのオーバーホール 始動に必要な点検、調整 二輪車のエンジン着脱、分解、組立	日産自動車株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 教員研修規定第2条2項に基づき、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにあたり、日産自動車株式会社等と連携し、必要となる専門分野に関する知識、技術、技能などを教員が十分に理解・習得し、授業内容・方法の改善工夫等をして授業が実施できるよう、「教育研修」を行う。		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	日産2級整備士必須講座	連携企業等: 日産自動車株式会社
期間:	2025/6/17～6/20	対象: 教員
内容:	<p>電動車、電子制御の故障診断を行うために必要な、システムの理解と系統立てた診断を行う 不具合車両のオーナー様の気持ちを理解しながら情報を聞きだし正しい診断を行う この講座では、日産1級整備士の修得要件である総合的な故障診断の考え方や、難解不具合のお客さま対応を学ぶ</p>	
研修名:	日産3級整備士必須講座(外国人コース)	連携企業等: 日産自動車株式会社
期間:	2026/2/2～2/6	対象: 教員
内容:	<p>この講座では、日産2級整備士を目指す上で基本となる、電動車の知識及び、故障診断の基本、お客さまへの問診方法を学ぶ 講座日数を5日間とすることにより、各実習時間を増やし時間をかけて説明し、理解度を深めることができる</p>	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	ピープルマネジメント研修	連携企業等: 株式会社ライフソフト(日産自動車株式会社委託)
期間:	2025/12/13	対象: 教員、職員
内容:	チームビルディング、リーダー育成	
研修名:	ジョブマネジメント研修	連携企業等: 株式会社ライフソフト(日産自動車株式会社委託)
期間:	2025/9/29	対象: 教員、職員
内容:	チームジョブのプロセス確立	
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	電動パワートレイン基礎講座	連携企業等: 日産自動車株式会社
期間:	2026/9/1	対象: 教員
内容:	<p>低圧電気の取扱いを基に、法令及び電気の基礎知識をEVを題材にして学習する 電動パワートレインを整備するにあたり必要な知識、高電圧部品の整備を安全に行うための作業手順を習熟する</p>	
研修名:	日産3級整備士必須講座	連携企業等: 日産自動車株式会社
期間:	2026/7/25	対象: 教員
内容:	<p>日産2級整備士の修得要件の基本を学ぶ ①技術領域: 総合的な故障診断(エンジンを題材) ②お客様対応領域: 難解不具合の対応(ロールプレーイング)</p>	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	ピープルマネジメント研修	連携企業等: 株式会社ライフソフト(日産自動車株式会社委託)
期間:	2026/12/1	対象: 教員、職員
内容:	チームビルディング、リーダー育成	
研修名:	ジョブマネジメント研修	連携企業等: 株式会社ライフソフト(日産自動車株式会社委託)
期間:	2026/9/1	対象: 教員、職員
内容:	チームジョブのプロセス確立	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校評価の目的は、学校運営・教育活動の改善であり、学校関係者評価は、自己評価結果の客観性・透明性を確保することを目標としている。本校の専攻分野に通じた関係者からの提言、助言は、学内に周知徹底すると同時に、内容を十分分析し、対策案、取り組みの時期の検討につなげていく。対策結果を、次年度の評価で学校関係者の評価をいただくサイクルを継続して回していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	【1-1】理念・目的・育成人材像は定められているか 【1-2】育成人材像は専門分野に関連する業界ニーズに適合しているか 【1-3】社会のニーズを踏まえた将来構想を描いているか
(2) 学校運営	【2-1】理念等を達成するための運営方針と事業計画を定めているか 【2-2】設置法人は、組織運営を適切に行っているか 【2-3】人事・給与に関する制度を整備しているか
(3) 教育活動	【3-1】理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか 【3-2】教育目的、目標に沿った教育課程を編成しているか 【3-3】成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか 【3-4】目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置付けているか 【3-5】資格・要件を備えた教員を確保しているか
(4) 学修成果	【4-1】就職率の向上が図られているか 【4-2】資格・免許取得率の向上が図られているか 【4-3】卒業生の社会的評価を把握しているか 【4-4】目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置付けているか
(5) 学生支援	【5-1】就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか 【5-2】退学率の低減が図られているか 【5-3】学生相談に対する体制は整備されているか 【5-4】学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか 【5-5】保護者との連携体制を構築しているか 【5-6】卒業生への支援体制を構築しているか
(6) 教育環境	【6-1】教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具を整備しているか 【6-2】学外実習・インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか 【6-3】防災に対する組織体制はを整備し適切に運用しているか
(7) 学生の受入れ募集	【7-1】学生募集を適正、かつ効果的に行っているか 【7-2】入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか 【7-3】経費内容に対応し、学納金を策定しているか
(8) 財務	【8-1】学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか 【8-2】教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか 【8-3】私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を行っているか 【8-4】私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか
(9) 法令等の遵守	【9-1】法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な運営を行っているか 【9-2】職業実践専門課程の認定要件を満たし、適正な教育運営を行っているか 【9-3】学校が保有する個人情報に関する対策を実施しているか 【9-4】自己点検評価、学校関係者評価を適切に行っているか 【9-5】教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか
(10) 社会貢献・地域貢献	【10-1】学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 【10-2】学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか
(11) 国際交流	【11-1】国際交流活動を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

各委員からは、「学生の人間性の育成」「留学生への対応」「退学率の改善」「学生募集の成果向上」等の学校の主要課題について各界の視点から、ご意見、アドバイスを頂いた。これらを、学校の活動に活かしていく事で受け止めを表明し、その後の校内の活動に反映している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
青柳 洋平	一般社団法人栃木県自動車整備振興会 教育技術部 部長	令和8年4月1日～令和9年3月31日 (毎年度初めに継続を確認)	業界団体代表
星 章夫	栃木日産自動車販売株式会社 アフターセールス・保険グループ 執行役員	令和8年4月1日～令和9年3月31日 (毎年度初めに継続を確認)	卒業生代表
篠原 伸昌	日産プリンス栃木販売株式会社 管理本部 店舗サポート部 課長代理	令和8年4月1日～令和9年3月31日 (毎年度初めに継続を確認)	企業代表
星野 和弘	上三川町 総務課長	令和8年4月1日～令和9年3月31日 (毎年度初めに継続を確認)	地域団体代表

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL:

<https://www.nissan-gakuen.ac.jp/tochigi/infomation.html>

公表時期: 2026年7月

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校関係者(学生、保護者、関係する業界、企業等)に対して、教育活動等の情報提供により、教育機関としての説明責任を果たすと同時に、当校の特色をアピールする。

また、教育活動の課題を示すことで、関係業界等からの理解や支援を得られることを期待する。  
提供する情報は、文部科学省の「情報提供等への取り組みに対するガイドライン」に準じて行う。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・学校の教育理念・人材養成の目標及び教育指導計画 ・学校の特色・校長名、所在地、連絡先等 ・学校の沿革、歴史 ・その他の諸活動(学校安全・保健対策)
(2) 各学科等の教育	・入学者の受け入れ方針、収容定員、入学生数・在学学生数 ・学科の特色・カリキュラム・成績評価・進級・卒業要件 ・資格取得、検定合格実績・卒業生数・卒業後の進路 ・シラバス
(3) 教職員	・教職員数(職名別)・教職員の組織、教員の専門性 ・校務分掌
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取り組み状況 ・実習/実技への取組状況・就職支援等への取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	・学校行事への取り組み状況
(6) 学生の生活支援	・学生生活の組織・学生支援の取り組み状況
(7) 学生納付金・修学支援	・学生納付金・学費サポート
(8) 学校の財務	・資金収支、消費収支、貸借対照表、監査報告、事業報告、財産目録
(9) 学校評価	・自己点検自己評価・評価結果を踏まえた改善方策
(10) 国際連携の状況	・留学生の受け入れ・海外交流
(11) その他	・学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL:

<https://www.nissan-gakuen.ac.jp/tochigi/infomation.html>

公表時期: 2026年7月

授業科目等の概要

(工業専門課程 国際自動車整備科)														
必 修	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 学 期	単 位 数	授業方法		場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 実 習 実 技	校 内	校 外	専 任	
1	○			基礎	自動車の基礎を全般的に学習する 日本語による自動車全般の構造及びについての説明内容を理解する。 日本語学校では取り扱わない自動車専門用語を理解する。	R6年度 通期	21	○			○	○		
2	○			一般	日本語による自動車の各装置の構成、構造についての説明内容を理解 日本語による自動車業界の基礎知識についての説明内容を理解 日産サービスの「サービスのねらい」、「ビジネスマナー」を理解	R6年度 通期	12	○			○	○		
3	○			基礎整備	自動車に触れ、各部各装置の名称、役割、作動を理解 日本語による説明にて内容を理解 教材の分解を通して、工具の取り扱い、安全作業を理解	R6年度 通期	8			○	○	○		
4	○			基礎工学A	工具の名称、基本的な使い方 自動車整備作業の目標、基礎整備作業 自動車の概要 機械要素及び材料 自動車に関わる基礎的な原理法則	R7年度 前期	1	○			○	○		○
5	○			エンジン構造	エンジンの原理、構造 エンジンの潤滑装置 エンジンの冷却装置 エンジンの吸排気装置 エンジンの燃料装置 バルブタイミング ガソリンエンジンの電子制御装置 ディーゼルエンジンの電子制御装置 排出ガス浄化装置 車載式故障診断装置	R7年度 通期	3	○			○	○		○
6	○			シャシ構造	自動車の運動性能の原理 変速装置の概要 変速装置より後の動力伝達装置 サスペンションのスプリング サスペンション ステアリング装置 ホイール及びタイヤ ホイールライメント ブレーキ装置 フレーム及びボデー 安全装置	R7年度 通期	3	○			○	○		○
7	○			電装品構造	電気の基礎的な原理法則 オームの法則を用いた計算 シャシ電気装置 冷暖房装置 エンジン電気装置 線膨張率	R7年度 通期	3	○			○	○		○
8	○			自動車工学1	エンジンの排気量 エンジンの圧縮比 ピストンスピード ロッカーアームのレバー比 燃料及び潤滑剤 駆動力 駆動力と速度、出力についての関係燃料 潤滑剤 オームの法則を用いた計算の応用 変速比によるエンジン回転数と駆動輪の回転数の関係 回転数とトルク及び出力の関係 圧力とパスカルの原理	R7年度 通期	4	○			○	○		○

授業科目等の概要

(工業専門課程 国際自動車整備科)														
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 学 期	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
							講 義	演 習	実 験 実 習 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
9	○		エンジン整備	エンジンの総論分野 エンジン本体の構造	R7年度後期	1	○			○		○		○
10	○		シャシ整備	シャシの総論 動力伝達装置	R7年度後期	1	○			○		○		○
11	○		電装品整備	電気装置 バッテリー 多重通信などの配線	R7年度後期	1	○			○		○		○
12	○		受入研修	新入生オリエンテーション 学則 学NAVI (学生便覧) 実習作業の安全	R7年度前期	1	○			○		○		
13	○		1A_エンジン分解組立1	エンジンの構成、部品名称、構造、作動 一般工具の取り扱い エンジンの分解組立 ディーゼルエンジンとガソリンエンジの違い	R7年度前期	1				○	○	○		○
14	○		1A_電気計測	電流、電圧、抵抗の意味 サーキットテスタの使用法 電圧の測定により、断線箇所 半導体を用いた回路 配線作業	R7年度前期	1				○	○	○		○
15	○		1A_日常点検	自動車の各部の呼称 お客さまの車としての取扱 日常点検 (新車か月、か月点検程度) ガレージジャッキ、リジトラックの取扱い	R7年度前期	1				○	○	○		○
16	○		1A_工作計測	工作工具の正しい取り扱い 正確にものづくり 計測器の基本的な取り扱いと目盛りの読み方 計測器を使い部品の各部を測定し、良否判定	R7年度前期	1				○	○	○		○

授業科目等の概要

(工業専門課程 国際自動車整備科)														
必 修	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 学 期	単 位 数	授業方法		場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 実 習 実 技	校 内	校 外	専 任	
17	○			1B_エンジン分解組立2	エンジンの詳細の構成、部品名称、構造、作動 正しく計測ができ、部品交換の判定 エンジンの分解、組立、点検方法	R7年度前期	1			○	○		○	○
18	○			1B_ブレーキ分解組立	ブレーキ装置の構造、機能 ブレーキ装置の重要性を理解 ブレーキ装置の分解、組立 ブレーキ装置の調整	R7年度前期	1			○	○		○	○
19	○			1B_TM脱着	クラッチの交換作業 ボードオンリフトの取扱い エアインパクトレンチの取扱い	R7年度前期	1			○	○		○	○
20	○			1B_サービス商品	車両の取扱い 洗車、サービス商品 内装品の脱着 消耗品の交換	R7年度前期	1			○	○		○	○
21	○			1C_車体電装1	自動車の電装品（灯火、信号系統、安全装置）の構造、機能 自動車の電気回路図、配線図、偽装図 自動車の電装品（灯火、信号系統、）の点検 自動車の電装品（灯火、信号系統、）の故障診断	R7年度後期	1			○	○		○	○
22	○			1C_ECCS1	ガソリンエンジンの電子制御装置システム ガソリンエンジンの電子制御装置のセンサ、アクチュエータの機能、作動、取り付け ガソリンエンジンの電子制御システムの回路図 故障診断器コンサルトを使い、自己診断やデータモニタを確認 ガソリンエンジンの電子制御システム内の電圧測定	R7年度後期	1			○	○		○	○
23	○			1C_1年点検1	自家用乗用自動車の法定年点検 点検整備記録簿の記載事項、作成 点検時の付帯作業としてブレーキパッド、ブレーキライニングの交換 ESMを用いて部品の取り付け手順を調べる	R7年度後期	1			○	○		○	○
24	○			1C_TM分解組立	マニュアルトランスミッションの構造、機能 動力伝達装置	R7年度後期	1			○	○		○	○

授業科目等の概要

(工業専門課程 国際自動車整備科)																
必 修	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 学 期	単 位 数	授業方法			場所			教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 実 習 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
25	○			1D_車両脱着	サスペンションの脱着作業 ドライブシャフトのブーツ交換の脱着 タイヤの脱脱、バランス作業	87年度後期	1			○	○			○		○
26	○			1D_STデフ	自動車の操舵装置の構造、機能 ファイナルギヤ及びディファレンシャルの構造、機能	87年度後期	1				○	○		○		○
27	○			1D_エンジン電装	エンジン電装品の構造、機能 エンジン電装品の点検、故障診断の判定	87年度後期	1				○	○		○		○
28	○			1D_二輪車整備	二輪車特有の整備 二輪車の基本的な構造	87年度後期	1				○	○		○		○
29	○			自動車工学2	国家級試験工学分野の計算問題	88年度通期	3	○				○		○		○
30	○			エンジン整備	ディーゼルエンジンの燃焼方式 ディーゼルエンジンの潤滑装置、冷却装置 電子制御燃料噴射装置	88年度通期	3	○				○		○		○
31	○			シャシ整備	動力伝達装置の故障探求 ディファレンシャル装置の機能と構造 懸架装置、操舵装置、制動装置、アライメント フレーム、ボディの構造	88年度通期	3	○				○		○		○
32	○			電装品整備	充電装置、始動装置 余熱装置、計器、警報装置、空調装置、安全装置等 外部診断機の取り扱い	88年度通期	3	○				○		○		○

授業科目等の概要

(工業専門課程 国際自動車整備科)													
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 学 期	単 位 数	授業方法		場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択					講 義	演 習	実 験 実 習 実 技	校 内	校 外	専 任	
33	○		自動車整備応用	国家試験出題範囲の エンジン、シャシ、電装、工学、法令の各分野の総復習	88年度後期	3	○		○		○		○
34	○		自動車検査	道路運送車両法及び同保安基準	88年度前期	2	○		○		○		○
35	○		2A_ECOS2	ジーゼルエンジンの構造、機能 エンジンの電子制御装置の構造、機能 電子制御式エンジンの点検、故障診断の判定 外部診断機（コンサルトⅢPlus）を用いてエンジンの点検	88年度前期	1			○	○		○	○
36	○		2A_AT脱着	オートマチックトランスミッション（FR）の構造、機能 オートマチックトランスアクスル（FF）の着脱 AT車のATの点検、整備	88年度後期	1			○	○		○	○
37	○		2A_車体電装2	車体電装品の構造、機能 車体電装品の点検、故障診断の判定	88年度前期	1			○	○		○	○
38	○		2A_1年点検2	自家用乗用自動車の法定年点検 点検整備記録簿の作成 お客様に対して整備結果説明（含むMMS） 消耗品交換作業 PCにより整備要領書（ESM）、部品（FAST）	88年度後期	1			○	○		○	○
39	○		2B_エアコン	自動車の暖房装置の構造、機能 エアコンディショナ装置の構造、機能及び冷凍サイクル ゲージマニホールドを用いて、エアコン（冷凍サイクル）の機能点検、判定 冷媒ガス回収機を用い、冷媒ガスの回収、充填作業	88年度前期	1			○	○		○	○
40	○		2B_自動車検査1	自家用乗用自動車の法定年点検 お客様対応の基本 オーダーシート、点検整備記録簿、消耗部品、メンテナンスシートを使いお客様にわかりやすく説明 消耗品交換作業 PCにより電子整備要領書（ESM）	88年度前期	1			○	○		○	○

授業科目等の概要

(工業専門課程 国際自動車整備科)													
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 学 期	単 位 数	授業方法		場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択					講 義	演 習	実 験 実 習 実 技	校 内	校 外	専 任	
41	○		2B_ECCS3	エンジンの電子制御装置のアクチュエータの構造、機能 エンジンの回路図を読み取り、アクチュエータの点検、故障診断 外部診断機（コンサルト4）を用いて的確にエンジンの点検	88年度前期	1			○	○		○	○
42	○		2B_AT分解組立	オートマチックトランスミッション（FR）の構造、機能 AT車のATの点検、整備	88年度前期	1			○	○		○	○
43	○		2C_EV, 新技術	EV基礎教育に基づいたEV/HEV/ePower車の基礎知識を習得 低電圧取扱業務に拘る基礎知識 応急手当（救命処置）の方法、機材の取扱 CAN通信の基礎知識	88年度後期	1			○	○		○	○
44	○		2C_自動車検査2	年点検を実施 点検記録簿の作成 検査機器の扱いを理解し車両検査を実施	88年度後期	1			○	○		○	○
45	○		2C_車体電装3	車体電装品の構造、機能 車体電装品の点検、故障診断	88年度後期	1			○	○		○	○
46	○		2C_車体電装4	CAN通信を使用した電装回路の構造、作動 コンビネーションスイッチ読み取り機能 信号波形と作動状態から故障箇所と故障状態（断線、短絡）の推定	88年度後期	1			○	○		○	○
47	○		2D_PSアライメント	パワーステアリング装置、ステアリングコラム機構の構造、機能 パワーステアリング装置、ステアリングコラム機構の点検、整備 ホイールアライメントの点検、整備	88年度前期	1			○	○		○	○
48	○		2D_貨物車エア装置	自動車のエア装置全般の構造、機能 貨物車の点検、整備	88年度後期	1			○	○		○	○

授業科目等の概要

(工業専門課程 国際自動車整備科)													
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授 業 科 目 名	授 業 科 目 概 要	配 当 年 次 学 期	単 位 数	授 業 方 法		場 所		教 員		企 業 等 と の 連 携
							講 義	演 習	実 験 実 習 実 技	校 内	校 外	専 任	
49	○		2D_TS実技	日産 T S 級実技試験に合格する 試験科目は ・タイヤ脱着 ・ドラムブレーキオーバーホール ・ディスクブレーキオーバーホール ・補機ベルト交換 ・配線図読み取り ・点火時期点検調整 ・オイル交換 ・バルブ（ランプ）交換 ・サーキットテストの活用	88年度前期	1			○	○		○	○
50	○		2D_CVT	CVTの構造、機能 CVTの電子制御装置 コンサルトを用いてデータモニタが表す値と関連性 データモニタの値から故障個所の絞り込み	88年度前期	1			○	○		○	○
合計					50	科目	108 単位						